

災害時、本当の助け合いをめざして

—災害初期段階における自治会の役割を考える—

いま各自治体で、防災計画の見直しが本格化しています。ポイントは、自分たちが住んでいる場所に即した計画であり、緊急時に隣近所が助け合って避難ができるかどうかです。

そこで今、災害初期段階における自治会・町内会の役割に注目が集まっています。

本センターでは、相互に災害時支援協定を結んでいるふたつの自治会の会長さんをお招きし、これまでの活動から災害発生時何が重要かを考えてみることにしました。

福住町町内会の取り組みは「福住町方式」として全国から注目を集めています。また日立市「**塙山学区すみよいまちをつくる会**」は、発足以来「365日型活動のまちづくり」を展開し、防災については「塙山総合防災計画」を策定しています。

福住町町内会をご存知ですか？

仙台市宮城野区にあります。次のような取り組みを行っています。

- 災害発生の初期段階にかけては自分たちで乗り切る。少なくとも72時間は行政にたよらない。3・11では、届けられた支援物資の9割をほかの避難所へ。
- 行政と連携し、災害時には何があってもこの人たちを守るという重要支援者を高齢者、障がい者等から抽出し地図入り名簿を作成。
- 全国の町内会、民間会社と災害時相互協力協定を結んでいる。そのうちの一つが日立市の塙山学区すみよいまちをつくる会。

1 日時 2014年6月1日(日) 午後1時～4時(開場 12時30分)

2 会場 常陽藝文センター 藝文ホール(7F)
水戸市三の丸1-5-18

なお、当センターには駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください

3 内容

講演1 菅原 康雄さん(仙台市宮城野区福住町町内会長)
「隗より始めよ 一できるだけ行政に頼らない地域力」

講演2 西村ミチ江さん(日立市塙山学区すみよいまちをつくる会会長)
「塙山コミュニティと3・11大震災」

討論 「災害初期と自治会の役割をめぐって」

出席者 菅原康雄さん 西村ミチ江さん 西山浩太さん(笠間市危機管理室長)

コーディネイター 帯刀 治さん(茨城大学名誉教授)

4 主催 公益社団法人 茨城県地方自治研究センター
(水戸市桜川2丁目3番30号 自治労会館内 TEL 029-224-0206)

5 後援 自治労茨城県本部